

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
弁護士

岩本 洋子 (いわもと ひろこ)

この文章を書いているのは2025年4月13日です。いよいよ今日から大阪夢洲(ゆめしま)で大阪・関西万博が始まりました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。「いのち」がテーマになっていることから日本WHO協会も共感し、賛同し、参加しやすい万博だと考えます。

3月から4月にかけてのテレビや新聞のニュースでは、アメリカのトランプ大統領が関税を100%に上げたとか、それを90日間延期したとか、株価が乱高下したとか、アメリカ国債がどうなったとか、こうなったとか、経済やビジネスや「お金」に関する話題がニュースの半分以上の時間を費やされて報道されています。このありさまを見て少々うんざりしています。

ウクライナの人の「いのち」や、ガザ地区の人の「いのち」や、人質の「いのち」はどうなったのでしょうか。誰がこの人たちのために日夜一生懸命働いてくれているのでしょうか、と言いたくなります。お金の話はもういいです。「いのち」の話をしましょう。戦争で「いのち」がなくなるとい話をしましょう。疫病で「いのち」がなくなるとい話をしましょう。小さな弱い赤ちゃんが「いのち」をなくすことのない話をしましょう。

「いのち輝く未来社会のデザイン」は、2025年の万博のテーマとしてなかなか素敵なテーマだと実感しました。

テーマといえば2025年のWHOの世界健康デーのテーマは「健やかな始まり、希望のある未来へ (Healthy beginnings, hopeful futures)」です。

赤ちゃんが、平和で、清潔な場所で、祝福されて生まれて、お母さんも元気で、その赤ちゃんがすすく大きくなって、学校で学んで、人の役に立つ仕事ができる、戦争で死なない、そんなイメージがうかびます。

中村安秀理事長は、小児科医で、母子手帳の世界的な推進者です。中村理事長の知見のテーマであると期待しています。

最後に産経新聞に紹介されていた母子手帳の話をご紹介します。

お母さんが「ひったくり」の被害にあって、バックもお財布もカードもみんなひったくられたそうです。そして一言、言いました。

「母子手帳だけは返して。」

2025年の後半が平和な世界でありますように祈ります。

2025年7月